

CHOHO

広報誌【長報:チョーホー】

Vol. 19

2007.April Spring



特集

ケニアの空の下で

— 熱帯感染症に挑む研究者たち —

新入生の皆さん、ようこそ長崎大学へ！

長崎大学長
齋藤 寛 Saito Hiroshi

四月というところは前田夕暮の短歌
「木に花咲き君わが妻とならむ日の四
月なかなか遠くもあるかな」を想います。

この歌は、相愛の女性と結ばれる四
月の来るのをひたすら待っている青年を
歌っていますが、私たち長崎大学の教
職員学生は若くて元気で、次の時代
の長崎大学の歴史を作ってくれるに違
いない新入生諸君が入学してくる四
月を一日千秋の思いで待っているです。

新入生の諸君、長崎大学へようこそ。
皆さんを心から歓迎します。

本誌「CHOHO」は年に四回（一、
四、七、十月）発行する長崎大学の活
動を社会の皆様を知っていただくため
の季刊広報誌です。

毎回四千部印刷します。高校生を
最大のターゲットとして、「CHOHO
O」を九州・山口地区の高校へ送ってい
ます。新入生の諸君の中に高校の図書
室などで、「CHOHO」を手にと
ってくれた人がいたとしたらとても
嬉しいですね。もちろん、一般市民の皆
様にも楽しく読んでいただけるよう
と心がけて編集しています。

本学の学生諸君の全員に、「CHOHO」
を毎回配布したいのですが、
予算上の問題もあり、附属図書館、談
話室などに置いて読んでもらうしていま
す。ただし、新入生の皆さんは特別で、
「CHOHO」の紹介を兼ねて、全員
に入学オリエンテーションのとき進呈

します。ぜひ読んでください。

また、夏休み期間中に開催する長崎
大学オープンキャンパスには三千七百
人も高校生が参加してくれますが、
このとき、「CHOHO」を希望する高
校生諸君には無料で進呈する予定で
す。評判がいいですよ。なお、今年の
オープンキャンパスは七月二十一日
（土）です。君たち新入生も、この日は、
ぜひ高校生を案内してやってください。

この「CHOHO」、読みやすく、
楽しくて、興味深いでしょうか。実は
「国立大学広報誌のコンテスト」が行わ
れる時代がきつと来る、そのとき絶対
優勝しよう！の合言葉で編集して
いるのです。新入生の諸君、また「CH
OHO」の読者の皆様からのご意見を
お待ちしております。

今回の学長コラムはこれまでで初
めることですが、春爛漫のこの四月、
入学してくるピッカピカの一年生（失
礼、でもホントでしょう）に向けたラブ
レターとします。

最後にひとつ、私は教職員学生が行
き交うとき挨拶しあうキャンパスであ
ることを理想としています。私は丸坊
主頭ですから、皆さんすぐわかります
構内で会ったら「こんにちは」と声をか
けてください。また、学長室で学生の
皆さんと歓談する時間を設けますか
ら、気軽に参加してください。待つてい
ます。

（追伸：学長メッセージ (<http://www.nagasaki-u.ac.jp>) にもアクセスしてご意見をください。
メールアドレス：president@ml.nagasaki-u.ac.jp 必ずお返事します。）

◎CONTENTS

【特集】 ケニアの空の下で

熱帯感染症に挑む研究者たち…… 1

【いいか放題】 TDK 株式会社 代表取締役社長

上釜 健宏さん…… 6

【人クローズアップ】 医学部・歯学部附属病院 看護師長

赤星 衣美さん…… 7

【We Love Circle】 全学空手道部 …………… 10

【現代『出島』発国際人育成と長崎蘭学事始】… 11

【長大ニュース】 …………… 14

【古写真・はし万華鏡】 富士川の吊橋 …………… 16

【インフォメーション】・【編集後記】 …………… 17

特集

ケニアの空の下

—— 熱帯感染症に挑む研究者たち ——

アフリカ大陸、赤道直下の国、ケニア。

この地に、誕生して間もない、

「長崎大学ケニア(研究教育)プロジェクト拠点」があります。

そこでは一体、どんな研究が繰り広げられているのか。

ケニア拠点長の嶋田雅暁さんに

語っていただきました。



ケニアプロジェクトの研究地域のひとつ、
ビクトリア湖畔のスバ地区。

アフリカ大陸の東海岸に位置するケニア。この地を初めて訪れる人は、想像以上の日射しの強さに、赤道直下そのものを実感するようです。

ひと口に熱帯地といっても、ケニアの表情は多彩です。インド洋から潮風が吹き寄せる沿岸地域は高温多湿ですが、私が常駐する首都ナイロビなどの高地は一年中、涼しくさわやかな気候です。またライオンやゾウなど野生動物が棲息するサバンナは、日中は身も心も干からぶほどですが、夜から朝にかけてたいへん冷え込みます。また、熱帯の樹木におわれた森林地帯や雪を頂いた美しい高峰、そして人類発祥の地といわれる大地溝帯グレートリフトバレー(など、ダイナミックな自然にあふれています。

ケニアの人口は約3,430万人で、キクユ族やルオ族、マサイ族など習慣も言葉も違う多くの民族からなっています。私たち外国人をはじめ多くの国民が公用語である英語を使い、国語であるスワヒリ語は異なる民族間の共通語として使われています。



**長崎大学の海外研究教育基地
「ケニア拠点」の誕生**

日本からドバイ経由の飛行機で約16時間国際交通が発達した現代において、ケニアはそう遠い国ではなくなりました。そんな中、長崎大学の海外研究教育基地、長崎大学ケニア(研究教育)プロジェクト拠点(以下、「ケニア拠点」)が2005年に産声を上げました。5年もの間大学のスタッフが海外に常駐して研究教育を行う、言わば本物の海外基地設立は、日本にとって多分初めてのことです。この歴史的な大英断を下した財務省や文部科学省、長崎大学の冒険心に心から感謝するとともに重い責任を感じています。



長崎大学
熱帯医学研究所教授
ケニアプロジェクト拠点長

嶋田 雅暁 Masaaki Shimada

1948年広島県生まれ。長崎大学医学部卒業。熱帯医学研究所、産業医科大学を経て、1997年から再び熱帯医学研究所へ。専門は寄生虫病学、熱帯病生態疫学。ケニアでの活動は1975年から。熱帯病の中で重要な疾患のひとつとされる住血吸虫症の研究を続けている。

アフリカ第一の高山、キリマンジャロ

ケニア拠点の目的は、熱帯地・ケニアに研究拠点を構築することによって、熱帯感染症や新興感染症・再興感染症の研究レベルを上げることです。実際に病気が流行している現地の研究者と協力し、様々な切り口から長い期間滞ることなく調査や研究を行い、若手研究者をその場で教育します。さらに、JICAとの連携により、開発援助の側面からも、研究成果を現地に還元することを目的としています。

ちなみに、医学研究と呼ばれるものを強いてふたつに分ければ「基礎医学」と「臨床医学」に分けることができますが、ケニア拠点における研究はどちらかというと「基礎医学」の分野に属するものです。前者は直接患者の診療に携わらず、解剖学、生理学、薬理学、細菌学、公衆衛生学、寄生虫学など、主に人体や病気の仕組みそのものについての学問で、患者さんを直接診る「臨床医学」にお医者さんの仕事とは少し物の見方が違うかもしれません。



ケニアにおける熱研の研究活動の歴史

ケニア拠点が実現した背景には、長崎大学の熱帯医学研究所以下「熱研」とケニアとの長い研究活動の歴史があります。

60年代初めから75年まで、熱研と医学部はケニア中央部リフトバレー州のナクル総合病院において、JICAの前身であるOTCA（海外技術協力事業団 Overseas Technical Cooperation Agency）の医療協力を行っていました。当時のケニアには医学部がなく、自国の医師は海外で教育を受けたほんの少数の者だけという頃で、長崎大学が派遣した医師、看護師、検査技師等が一体となって来る日も来る日も押し寄せる患者の治療に



約40年前、ケニアに渡った熱研のメンバーと現地の研究者。嶋田さんの恩師、片峰大助先生（右から3人目）の姿もある。ケニアの病院で採血をする熱研の医師。



あたるという状況でした。ケニアの人々が抱える病気は、主にマラリア、下痢、肺炎、結核といった感染症です。診療時間が終わっても患者の列は無くなりません。日々、病気の元を絶たなくては、どうにもならないと思うようになったのは、当然の成りゆきでした。

そうして当時、誕生したのが「伝染病対策研究プロジェクト」です。これは長崎大学とJICA、そして当時、組織されたばかりのケニア中央医学研究所 Kenya Medical Research Institute)による共同プロジェクトで、まもなくウイルス、細菌、原虫、そして寄生虫といった感染症の病原体の研究者が全て出揃い、巨大プロジェクトとして動きはじめました。その運営は、他大学からの助っ人

を多少は得ながらも、事実上、単独の研究組織である熱研によって長い間行われました。ケニア拠点はこのような20年以上に及ぶ熱研のケニアにおける研究活動の延長線上に生まれたのです。



熱帯感染症研究における拠点の必要性

ここで、熱帯感染症を熱帯地・ケニアで研究する理由についてお話しします。

現在、地球上で確認されている生物の種は数百万種、実際は数千万はいると推測されているので、その内70〜80%は熱帯地にいるといわれています。このことから、生物の一種である感染症の病原体も当然、アフリカに多いということになります。

それを裏付ける話が、近年、話題になっている新興感染症です。これらの病原体は熱帯地で見つかることが多い。あるいは、熱帯地から出たものが、何らかのルートでよその土地に渡って見つかるというパターンもあります。HIV/AIDS、西ナイル熱などがそうです。

このように熱帯感染症のいろいろな病原体が潜む現地における研究は、研究対象が身近にあるということだけでなく、底知れぬアフリカの環境や人々の生活の様子も含め総合的により深い研究成果を生み出すことができるわけです。サンプルだけを持ち帰って別の場所で研究したのでは、その感染症や感染症に罹っている人々との間に距離感が生まれ、見逃すものも多いと私は断言します。



国境を越え、猛威をふるいはじめた感染症

実は少し前まで多くの感染症は、抗生物

質で治る病気」だと、ワクチンで予防できる病気などと思われ、医療関係者の間でも誤解がありました。しかし、近年HIV/AIDSをはじめBSE、SARSなどの新興感染症が社会を騒がせたのは皆さんの記憶にも新しいことではないでしょうか。

感染症が再び猛威をふるうようになると、また、アフリカにおいては公衆衛生面において多くの問題を抱えており、それも大きな要因になっています。

貧困と病気の悪循環が続くアフリカ

ここで、アフリカの現状について少し触れたいと思います。

世界の人口は現在、約65億人といわれ、毎年亡くなる人の数は6千万人近くいます。亡くなる原因を地域的に見ると、たとえば日本の場合、ガンや脳の血管障害、心臓病など生活習慣病が上位を占めています。その多くは、ある程度の年齢まで生きて初めて罹る病気です。日本に限らず先進国といわれる国々では、およそ死因の90%を占めています。

そのような状況の中で、世界人口の14%約9億人が住んでおり、今も爆発的に増え続けているアフリカでは、亡くなる人の半分以上が何らかの感染症を原因としています。しかも、その多くが免疫力が低い5才以下の子どもたちです。また大人が亡くなる原因も、先進国とは異なります。それは、なぜなのか、貧困が大きな要因のひとつといわれています。貧しさゆえに不衛生なものを口にすると、病

NAIROBI

熱帯感染症 熱帯病。感染症の中で熱帯地にしか病原体がない感染症。マラリア、デング熱・デング出血熱、西ナイル熱、HIV/AIDSなど。

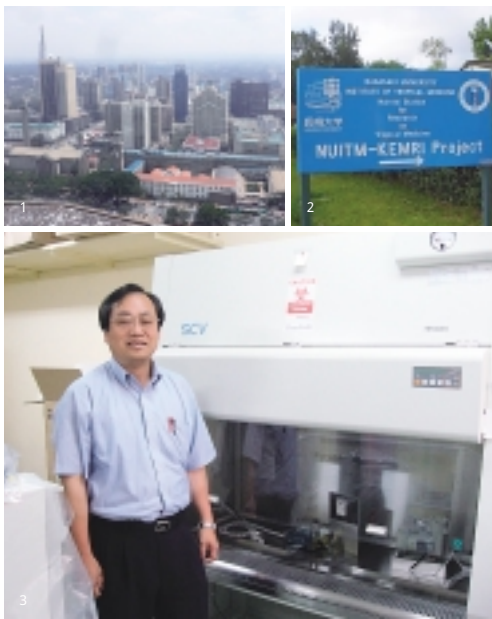
新興感染症 「かつては知られていなかったか、あるいは新しく認識された感染症で、局地的に、または国際的に公衆衛生上問題となる感染症」WHO（世界保健機関）の定義より。新型コロナウイルス、エボラ出血熱、HIV/AIDS、SARSなど。

再興感染症 「既知の感染症で、すでに公衆衛生上問題とならない程度まで患者数が減少していた感染症のうち、再び流行し始め、患者数が増大したもの」WHO（世界保健機関）の定義より。マラリア、結核、サルモネラ症、デング熱・デング出血熱など。

JICA 国際協力機構（Japan International Cooperation Agency）途上国に対する政府開発援助（ODA）の実施機関。

HIV/AIDS Human Immunodeficiency Virus（ヒト免疫不全ウイルス）の感染/エイズ

1 ナイロビ拠点



首都ナイロビは、多くの外国人が在住する国際都市。ナイロビにあるKEMRI（ケニア中央医学研究所）構内に掲げられた「長崎大学ケニアプロジェクト拠点」の看板。ケニア拠点でラボ（研究室）整備中の一瀬さん。KEMRI本部。ナイロビ拠点は別のKEMRI支所構内にある。ナイロビの貧困地区で見かけた共同水道。

P3レベルのバイオハザード対策用ラボシステム 危険なバイオハザード（生物災害）の対策用ラボシステムには、現在、P1～P4まで4段階あり、エボラ出血熱などの最も危険な感染症の病原体を扱える施設がP4です。P3はエイズウイルスやSARSなど次のレベルの危険度の病原体を扱える施設です。現在、日本ではP3レベルの施設は稼働していますが、P4は稼働していません。



嶋田雅暁さん（左）、25年来、研究活動を共にしたケニアのスタッフとそのお孫さん。

1 ナイロビ拠点

ナイロビにあるKEMRI構内に設けたコンテナハウスが研究施設の中心です。この3月には、国内スタッフの協力を得て、P3レベルのバイオハザード対策用ラボシステムが設置されました。一瀬休生さんを中心に、現地の人々の死亡の原因となる病原体の解析作業などが行われています。

ここに常駐している私の仕事は、今のところ主に研究活動の基盤づくりで、毎日のようにケニアのさまざまな公的機関を訪れ、人脈をつくり、自分たちの活動内容を伝え、現地のさまざまな情報を得るなどです。こうした活動は、現地で行うべきでない研究を、今後いかに円滑に行っていくかという意味で重要です。一段落したら、本業の寄生虫病の調査研究に乗り出すつもりです。

ナイロビ拠点、スハ地区、クワレ地区での活動

原体を避ける衛生道具が行き渡らない。世界の不平等が垣間見えます。この問題に対し、私たちは自分の分野で、微力ながらもできることをやっていかなければなりません。

ケニア拠点は1、ナイロビ拠点 2、スハ地区 3、クワレ地区の3つの研究拠点をよつしています。現在、スタッフは熱研から教員4人、研究員1人、事務職員1人が常駐し、大勢の現地スタッフとともに活動を続けています。また、時には医学部の学生も研修を行っており、現地における熱帯感染症の実情を認識するすばらしい機会になっています。

2 スバ地区

スバ地区は、ビクトリア湖畔にある漁村です。ケニアでも貧しい地域のひとつとして知られ、マリアの流行地域です。HIV/AIDSやコレラも大きな問題になっています。ここでは、金子聡さんが中心となり、現地スタッフとともに、人口動態・動態調査システム(DSS: Demographic Surveillance System)による調査をはじめとしています。これは住民を登録し、彼らがいっような病気に罹り、原因は何なのかなどを調べるものです。ケニアでは日本のように全ての人が住民登録されていないため、定めたエリア内をスタッフが訪ね歩きひとりひとり登録し、定期的に2週間おきに健康状態をチェックしています。この地道な作業を続けることで、その地域に起こる感染症の本当の原因を突きとめることができます。

スバ地区ではまた、皆川昇さん、二見恭子さんのチームがマリアを媒介するムダラカが季節によってどのように増えたり減ったりするかを観察しています。そのデータをもちに、近いうちに殺虫剤を使ってムダラカを少なくしてマリア患者の発生を予防するという活動をはじめの予定です。

3 クワレ地区

サブナに囲まれたクワレ地区はスバ地区に比べ人口密度の低い地域です。ここでも現地スタッフを雇い人口動態・動態調査システムの整備を予定しています。

長崎大学の
そして日本の夢を現実に

地道なフィールドワークや小さな事実の積み重ねによって成果を築く研究活動にはさまざまな困難が付きまとうものです。ケニアの場合、インフラが不十分なため、水がない、停電した、大雨で道が遮断され往來ができない、実験器具が足りない、ガラス器具が壊れた、といったさまざまなアクシデントに見舞われます。その度に思い出すのは、もともと不便だった30年ほど前、恩師、片峰大助先生(いりも)も言っておられた言葉です。「これこれがないから、これはできません、それだけは言うな!。若い研究者にとって、困難は成長のための大きな糧となります。さらに、今回は詳しく触れられませんが、現地での研究を通して見えてくる生き物たちの摩訶不思議は、どこか夢と現実、常識と非常識の間を行き来するような感覚があり、わくわくするような感覚があります。だからこそ、研究の醍醐味というものです。

日本の大学として初めて、海外に基地を置いて研究する。私のような古い人間にとっては夢のような話がいま実現しているのは、多くの裏方の人たちの目に見えない努力があるお陰です。拠点における日々の面倒な事務作業一切を引き受けてもらっている本田志保さんは当然のこととして、研究所内外の事務職員の方々、国内外の研究者の方々、財務省や文部科学省の行政の方々など、数え切れないほどの多くの方々のご理解とサポートの賜物です。この場を借りてお礼申し上げます。

ケニアでの具体的な研究調査の様子は、次号から、ケニアの空の下で、フィールド通信(3回連載)としてお届けします。ぜひ、お楽しみに!

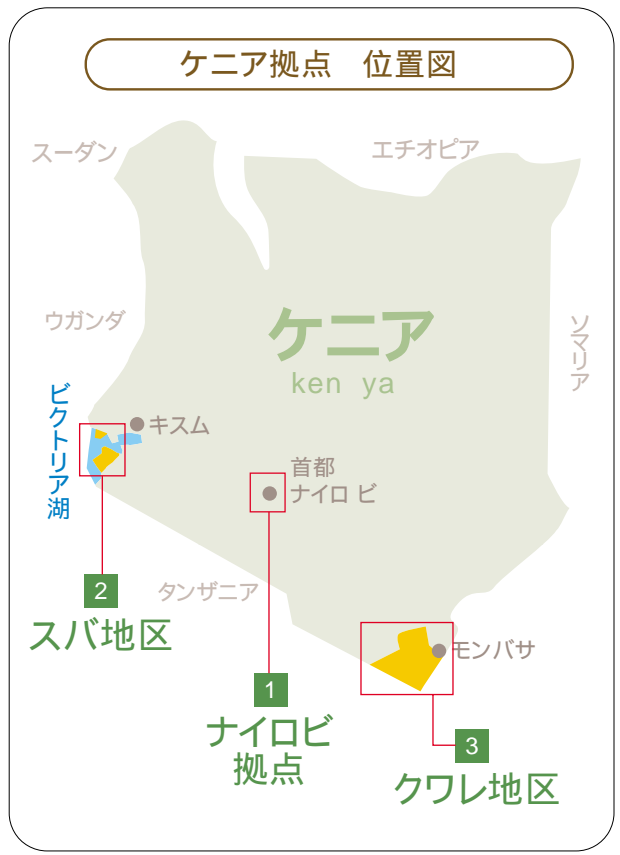


3 クワレ地区

KWALE



いろいろな場所に向いて媒介蚊を採取。大きなナツツの木陰で、研究の説明を受ける地域の小学生や村人たち。木陰に作られた小学校のトイレ。この周辺でも媒介蚊を採取。クワレ地区にある門司和彦さん(熱研教授)の診療所。乗り物で遊ぶ子ども。自分で木を削って作った。



長崎大学のシンボル帆船が入った現地スタッフ用の帽子。

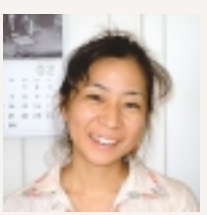
2 スバ地区

SUBA

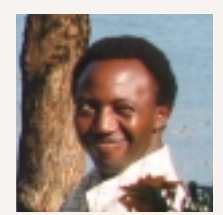


DSSの打ち合わせをする金子さんと現地スタッフ。スバ地区の女性。アフリカ最大の湖、ビクトリア湖での漁業従事者が多い。スバ地区の現地スタッフ。DSSの整備に必要な情報を集める現地スタッフは、全員インタビューとしてのトレーニングを受ける。医学部のリサーチセミナーで、現地スタッフの指導を受けながらマリア蚊を採取する学生たち。

(長崎大学熱帯医学研究所 ケニアプロジェクトホームページ) <http://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/nairobi/>



本田 志保
Shiho Honda
長崎大学熱帯医学研究所
ケニアプロジェクト拠点
事務職員



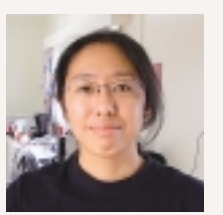
エマヌエル・ムシンジマナ
Emmanuel Mushinzimana, PhD
国際昆虫生理・生態学
研究センター (ICIPE) より
出向中



サミー・ンジェンガ
Sammy M. Njenga, PhD
ケニア中央医学研究所
(KEMRI) 微生物研究センター
より出向中



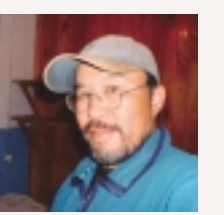
モハメド・カラマ
Mohamed Karama, MPH
ケニア中央医学研究所
(KEMRI) 公衆衛生研究センター
より出向中



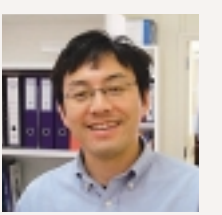
二見 恭子
Kyoko Futami
長崎大学熱帯医学研究所
ケニアプロジェクト拠点
研究員



一瀬 休生
Yoshio Ichinose
長崎大学熱帯医学研究所
ケニアプロジェクト拠点
教授



皆川 昇
Noboru Minakawa
長崎大学熱帯医学研究所
ケニアプロジェクト拠点
教授



金子 聡
Satoshi Kaneko
長崎大学熱帯医学研究所
ケニアプロジェクト拠点
教授

ケニア拠点スタッフ



聞いたか 放題

「モノづくり」は奥が深く楽しい



TDK 株式会社 代表取締役社長 上釜 健宏

Kamigama Takehiro

プロフィール 1958年1月生まれ、鹿児島県出身。1981年、長崎大学工学部卒業。同年、TDK入社。2001年、記録メディア事業本部技術戦略部長。同年、ヘッドビジネスグループゼネラルマネージャー。2002年、執行役員就任。2003年、常務執行役員就任。2004年、取締役専務執行役員就任。2006年6月、代表取締役社長就任。

TDKというブランドからは、多くの方がカセットテープや光ディスクをイメージされると思います。しかしTDKの主要製品は、コンデンサやマグネット、HDD（ハードディスクドライブ）用ヘッドなどの電子部品であり、記録メディアの売上高構成比は約10%にすぎません。TDKは今から70年ほど前に、東京工業大学の加藤与五郎博士、武井武博士の発明による磁性材料フェライトの事業化を目的として創業しました。いわば、大学発ベンチャーの走りであり、独創的なモノづくりの会社として今に至っています。

私の出身校である長崎大学では、個人的で教育熱心な先生方が多く、親身なご指導を受けられることができました。毎回の講義も面白く、好きな研究を自由にやらせていただき、このときにモノづくりの楽しさを知りました。また、先生と学生とのコミュニケーションが非常に良く、人間関係のつくり方まで学び、このことが社会にでても大変役に立っています。現在、若者の理科系離れや理工系学生の製造業離れが問題になっていますが、理科というのは、本来とても楽しいものです。疑問に思ったことを論理的に検証していくのが理科の学習であり、その過程で自分の想像力や独創性を大いに発揮できるからです。こうした理科の楽し



さや、科学技術に基づいたモノづくりの奥深さを、子供のころから体験できるようにになれば、理科系を志す人も多くなると思います。

科学技術の発展には、目を見張るものがあります。パソコンやDVDレコーダ、携帯音楽プレーヤ等に使われているHDDの面記録密度はこの50年でなんと1兆倍になりました。これからもイノベーションが続きます。ますます便利で快適な社会に進化していきます。

若い皆さんには、いろいろな分野で活躍してほしいと思います。しかし変化とスビドの時代、今後どんな分野が成長するのか、予想することは難しくなっています。それでも、大学で学んだことがすべての基本となります。

自分が何をしたいのか、目標をきちんと定めて、学校以外にも本を読んだり、インターネットなどを活用したりして勉強をしてください。もちろん遊ぶことも大切で、よく学びよく遊べの精神で、人間の幅を広げてください。それから、価値観を共有できる仲間との出会いを、ぜひとも大切にしてほしいと思います。

磁性材料フェライト：酸化鉄にマンガン、ニッケル、亜鉛などを配合して焼結した磁性材料。
トランスやコイルの磁心、磁石の材料などに使われ、電子機器の高性能化、小型化に貢献しています。



長崎大学医学部・歯学部附属病院
産科婦人科病棟 看護師長 助産師

赤星 衣美さん

Akahoshi Emi

出産シーンに感銘を受ける

「助産師になりたいと思ったのは、高校生の時、TVで見た出産シーンに感銘を受けたことがきっかけです。赤ちゃんが生まれてくる様子がすごく神秘的で、母親の表情がとてもきれいでした。とりあげた助産師さんの姿もたいへん印象深かったですね。人生の岐路はある日唐突に何気ない顔をしてやってくるもの。10代の多感な時期、偶然に見たそのワンシーンは、瞬く間に一人の人間の将来を決めてしまいました。」

赤星さんがめざした助産師は、看護職（看護師、保健師、助産師、准看護師）のひとつ。妊娠している女性のお世話をしたり、相談に乗ったりする他、正常な出産の場合には、主体となつてそのサポートをするのが仕事です。

看護師、助産師をめざして

そもそも看護職に就くためには、看護専門学校や看護大学などを経て、看護師以外は国家試験に合格しなければなりません。

赤星さんは、高校を卒業後、長崎大学医学部附属看護学校、現長崎大学医学部保健学科で3年間学んで看護師になり、続いて同大附属助産婦学校（ ）で1年間学びました。当時は、10例の分娩のサポートを経験しなければ、助産師

長崎大学には、学生たちや教授陣だけでなく、

さまざまな専門分野で活躍する人が大勢います。

長崎大学医学部・歯学部附属病院の

赤星衣美さんもそのひとり。

看護師・助産師として約20年のキャリアを持つ赤星さんは、

日進月歩で進化する医療の分野で、

より質の高い看護を提供するために、

前向きに学び続けています。

の国家試験を受けられなかったため、長崎大学医学部附属病院(現長崎大学医学部歯学部附属病院)以下、大学病院)で症例を重ねました。そして、晴れて試験に合格。しかし、この後、助産師として社会には出ず、さらに保健師の資格を取るべく長崎県立長崎保健看護学校へ進みました。

保健師をめざしたきっかけ

保健師は主に保健所や市町村役場などに勤務し、地域の人々を対象に健康のための教育や相談、家庭訪問などの保健活動を行います。赤星さんがその資格をめざしたのは分娩のサポートで9例目となった方との出会いがきっかけでした。「救急で入院された方で、出産を目前に控えていました。赤ちゃんやご自身のこ

となど、いろいろな事情を抱えていらした。不安でいっぱいだったので、深夜その方がひとり泣いておられ、それから明け方まで新米の私に複雑な胸の内を話してくれました。この時、患者さまの心の問題の深刻さに触れながら、話を聞くことだけしかできない自分の未熟さを痛感。同時に、地域にはさまざまな環境に置かれた妊婦がいることを強く認識することに。助産師として、もっと知らなければならぬことがある。そのために、保健師の仕事学ぶことにしたのです。

会話を通して信頼関係を築く

保健師の資格を取った後、大学病院の看護部に就職し、現在に至っています。「総合的な高度医療を提供する病院というところもあり、来院される方は産科婦人



「赤星さんは、いつでも丁寧に相談に乗ってくれる心強い存在です」と評判。



仕事の後、大学で学ぶ赤星さん。
社会人特別選抜で入学した同期生は皆、大切な友人。

会話を積み重ねることで徐々にお互いの思いを知り信頼関係も築かれていきます。それが、より安全な分娩にもつながっていくのです。」

カウンセリングへの関心

日々、多くの妊婦の方々と接する中で現在、赤星さんが知識を深めたいと思っているのが、カウンセリングについてです。「産科婦人科では出生前診断をされる方が増えていることもあり、臨床で告知の場面に関わることがたいへん多いのです。患者さまは何か問題があった時、大きなショックを受けます。その後、いかに悲しみや怒りを乗り越え回復していくのか、その時、カウンセラーはどう対応したらいいのか、そういうことをきちんと知っておきたい。大学病院には、遺伝カウンセリング室があり、そこで行われる勉強会に積極的に参加しています。」

現在の赤星さんは産科婦人科の病棟に勤務。入院患者さまの日常生活の援助を中心とした仕事をしています。「気持ち良く食事や睡眠がとれること、心を聞いて話ができること、安らいでいただくこと。そのための環境づくりにつとめています。ただ、安静が必要など制約のある方が多いので、100パーセント患者さまの望み通りに、というわけにもいきません。そこで大切になってくるのが、日頃のコミュニケーションです。患者さまの髪を洗う時、身体を拭く時などに、ちよとした言葉を交わしあうことで、その方のストレスを少しでも受け止めたい。長時間話すことも場合によっては必要ですが、小さな

プライベートでは、お茶やゴルフなど多彩な趣味を持つ赤星さん。高校生の時、バスバンドではじめたフルートもそのひとつ。





1. 日々の業務で欠かせないスタッフとの打ち合わせ。
2. 助産師外来では、妊婦のお腹にエコーをあて、赤ちゃんの様子を細かく伝えます。赤ちゃんの成長する様子はお母さんの励みに。
3. 毎朝、触診でお腹の張りを確認し、赤ちゃんの状態をみます。

リプロダクティブヘルス・国際看護分野
看護職者を養成するためにリプロダクティブヘルス/ライツの視点をもった健康支援、家族支援方法をさらに高め、地域に貢献できる質の高い看護実践のできる人材や、国際的視野で健康支援ができる人材を育成する。「リプロダクティブヘルス」は、性と生殖の健康。「リプロダクティブライツ」は、性と生殖の健康のための条件が満たされることを要求する権利のこと。



産科婦人科の新しい試み

今、少子化という時代を迎え、一人ひとりのT.Zに伝えられる産科婦人科のシステムが望まれる中、大学病院でも新しい試みがはじまっています。「オープンシステム」という方式で、妊娠中は通いやすい近所の開業医で診ていただき、お産はこちらの病院でという、連携医療を行っています。特に産科婦人科の領域は、地域との関わりを重視しています。

また昨年から、妊娠・出産・育児に対する相談ごとを助産師が対応する、助産師外来がスタート。ひとりの患者さまに対し、1時間30分ほどの時間をかけてお話をうかがいます。助産師は医師とは違い診断はしませんがエコーをお腹にあてて赤ちゃんの様子をお母さんに伝えたり、食生活のアドバイスなどをしながら、不安を解決する糸口を探します。私たち助産師にとっても、やりがいのある試みです。

この助産師外来（大学病院に通院・入院されている方が対象。要予約。無料）は、利用者の満足度も高く、不安が解消された、安心してお産にのぞめるという声が聞かれたいへん好評だそうです。

赤ちゃんがお腹にいる10ヶ月と1つのは、神さまが与えてくれた時間だと思つて赤星さん。その間に、生活を整え、自分の身体を整える。助産師は、生まれるまで、生まれる時、そして赤ちゃんを迎えて新しい家族の形を整えていく時期をサポートしていくのが役目なのです。



妊婦の方の相談に応じる助産師外来。
赤星さんの具体的で的確な話で、妊婦の方も安心感を抱く。

仕事をしながら大学院へ

実は赤星さんは、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・保健学専攻看護学講座の大学院生で、仕事と学業を両立させています。「通常、私が受ける講義は夕方からなので、仕事のまま駆け込むこともあります（笑）」。

大学院では、**リプロダクティブヘルス・国際看護分野**を学んでいます。「助産師としての国際的な知識を深めたいという思いもありましたし、これまで積み上げてきた経験や知識をひとつの理論にするための方法を学びたかった。理論にすれば後輩たちも納得して受け止めてくれるから」。

多くの後輩たちと接しながら、人を育

多忙な日々を支えるもの

「患者さまのベッドサイドへ行きながら、言いますね。そこに答えがあるから」。

「患者さまのベッドサイドへ行きながら、言いますね。そこに答えがあるから」。

「患者さまのベッドサイドへ行きながら、言いますね。そこに答えがあるから」。

明るく、ものごとくだわらない性格で、あまりストレスを感じないという赤星さんとはいえ、責任ある立場にもあり、きつと心身ともにたいへんははず。師長の助けを得ながらやっています。今の自分があるのは、そういった先輩たちのお陰です。育ててもらった感謝の気持ちを、今度は私が後輩たちに返していきたい。真摯な態度から生まれる人への思いは、注げば注ぐほど満ちあふれるもの。患者さまをはじめ先輩、後輩とのつながりを大切にする赤星さんにとって、それが多忙な日々を支えるエネルギーになっているようでした。

（尚本文は平成19年1月に取材したものです。4月からは赤星さんは看護師長として活躍中です。）

学生時代を謳歌するなら、やっぱりサークルでしょ。

We Love Circle

基本動作のひとつ「逆突き」。前方へ重心移動しながら、拳に力を集中させて打ち込む。



【部訓】

情熱

太月絵菜さん(女子部主将)と別府奈々さん(右)

三根健太郎さん(男子部主将)と中村隼人さん(右)

日 本の伝統武道のひとつ空手道。身体と精神の強さを養う競技スポーツとして世界中の人々に親しまれています。

「空手道にはさまざまな流派がありますが、私たちがやっているのはスポーツ空手とも呼ばれる分野で、流派は松涛館流です。大きな特長は、寸止め」といふルー。意識の中ではしっかり技を極めながらも、相手に当たる直前に技を止めなければなりません」と中村隼人さん(前男子部主将・工学部4年)。技がまともに当たれば、大きな傷を負わせてしまつ空手道。その昔生まれたこのルールに

全学空手道部

と礼節

より、空手道は老若男女に親しまれ広く普及したといえます。

創部から半世紀以上の歴史がある全学空手道部(男子部・女子部)。

ここ数年の男子部の活躍はめざましく、昨年度は全九州学生空手道選手権大会個人戦

や西部九州学生空手道選手権大会男子団体組手の部などで優勝し、全国国公立大会男子団体組手の部でも準優勝しました。

強くなった要因について、部の秀囲気がとてもいいです。信頼できる仲間がいるから練習に参加しようと思つし、厳しい練習も乗り越えられる。それが強さにつながつたと思います。

中学から空手道をはじめた中村さんは、高校生の時、

後ろ回し蹴り(左)を極める別府さん。



1対1で向かい合い技を出し合ふ組手で、実戦の感覚を身に付ける。

相手の上から上段突きで仕留める。



現在部員数は34人。ふだんは和気あいあいが、ひとたび練習が始まると、部員たちの表情は一変。気合いの入つたまなざしで緊張感が漂います。

県大会1位、大学でも九州大会で1位となつた実力者です。「何事も努力すればできるんだ」ということを学びました。それは勉強など他のことにも通じると思います。ところで、何となく難しくそんな空手道ですが、初心者も入部できるのでしようか? もちろんです。大学からはじめた部員も大勢いますし、頑張れば黒帯もとれます」と別府奈々さん(前女子部主将・教育学部4年)。一見、女の子らしい細身の彼女が、突きや蹴りなどの技を極める姿の凛々しいこといつたらありません。

また、小さい頃から身体が弱く、親にすすめられて空手道をはじめたという太月絵菜さん(女子部主将・水産学部3年)は、気管支が弱かったのですが、空手道の腹式呼吸のおかげで改善されました。この武道を通して礼儀も身に付き、いろいろな人と臆せず交流ができるようになりました。

空手道は、精神面を鍛えたい、身体を強くしたい友達をつくりたい、そんなみなさんにおすすめのスポーツです。





現代『出島』発 国際人育成と長崎蘭学事始

長崎大学のプログラムが、現代GP(平成18年度文部科学省
現代的教育ニーズ取組支援プログラム)に採択されました。



現代GP『出島』
創出プロジェクト



長崎で勃興した長崎蘭学の歴史的価値を認識し、古蘭文資料解説研究に参加し、研究心を身につけた日蘭交流を担う国際人・平成オランダ通詞を育成する。

- 日本人学生とオランダ人学生による共修科目『長崎蘭学』
- 東西の科学文化の歴史的交流を教授する『東西科学文化交流史』
- ライデン大学教員が講義する『オランダの言語』『オランダの文化』
- 市民公開講座・NICEキャンパス(長崎県内大学単位互換制度)科目の開設
- オランダ人学生が地域の小中学校の「総合学習」に参加

西洋と日本の架け橋、 オランダ通詞

鎖国時代に日本と世界とを結ぶ公的な窓口として繁栄した街、長崎。長崎は、「長崎蘭学」と呼ばれる当時の日本最先端の学問が誕生した場所でもあります。長崎蘭学とは、江戸時代中期以降に、オランダ語で西洋の知識や文化を研究した学問のこと。長崎で生まれたのでそう呼ばれています。研究分野は医学・数学・兵学・天文学・暦学などの多岐にわたり、最新の知識が長崎から日本中に発信されました。さて、ここで一つの疑問が浮かんできます。オ

ランダ語で持ち込まれた知識や情報を、当時の人々はどのようにして理解していたのでしょうか。その答えの鍵を握るのが「オランダ通詞」です。「通詞」は通訳或いは翻訳をする者という意味ですから、「オランダ通詞」はオランダ語と日本語の通訳或いは翻訳する人を指すということになります。オランダ通詞は西洋と日本の架け橋として、通訳としてだけではなく研究者としても活躍した非常に優秀な人々であつたそうです。はるか昔の長崎で、オランダ語を巧みに操る日本人が活躍していたことは、驚きであると同時に誇らしくもあります。

スタイトした 平成オランダ通詞の育成

開国と同時に、長崎が外国への唯一の窓口としての役目を終えてから、およそ150年が経ちました。長崎大学は、平成18年度現代版オランダ通詞「平成オランダ通詞」を育成しようという教育プログラムを開始しました。

平成オランダ通詞になるための素養を問われれば、国際感覚、異文化間コミュニケーション能力、語学力、研究心が挙げられると思います。それらを身につけるための教育の場と機会を、日本人学生とオランダ人学生の両方に提供し、彼等平成オランダ通詞たちの手により平成の長崎蘭学研究を興そつというのがこの教育プログラムの目的です。

具体的には、授業科目「長崎蘭学」「東西科学文化交流史」「オランダの言語」「オランダの文化」を開講します。「長崎蘭学」は日本人とオランダ人の学生がクラスメイトとして共に

学ぶ科目です。それぞれの分野について、国内外の専門家が授業を行いますので、効率的に必要な知識を身に付けることができます。特に注目すべきは、オランダ語と交



古文書デジタル化の作業。

換留学生を交えた文化の授業です。オランダから専門家の先生を招いて開講しますので、高いオランダ語

能力とオランダの文化に対する深い知識を修得することが大いに期待されます。また、平成20年以降には優秀な学生がオランダへ留学し、さらにその能力を伸ばして見聞を広めるチャンスが待っています。平成19年度から開講するこれらの授業科目の試行として、平成18年度には、ライデン大学から講師の先生方をお招きして、オランダの文化や長崎蘭学に関する特別講義を実施しました。この授業を受けて、我々こそは平成オランダ通詞になりたいと、早くも目を輝かせる学生も見受けられました。

ライデン大学の学生との交流

一方、平成16年度から毎年10名ずつ受け入れているオランダのライデン大学の学生たちは、日本語・日本文化の授業はもちろんのこと、小中高等学校に出かけて行き、総合学習に参加するなど、地域の国際化に貢献しながら着実に異文化理解

を深めています。

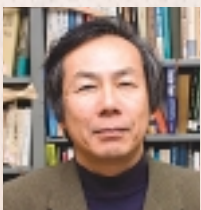
平成オランダ通詞に期待されている最も大きな仕事は、古蘭文資料の解読です。非常に興味深いことに、長崎には、オランダ通詞が手書きしたオランダ語の資料が、日本語に訳されることなく、今も眠っているのです。これらの資料を紐解けば、長崎の活性化につながるような歴史的に価値のある発見ができる可能性もあるでしょう。

長崎大学やライデン大学の先生方をはじめとする大勢の人々が情熱を傾け、すすめられている本プロジェクト。近い将来、平成オランダ通詞の社会での活躍が期待されます。

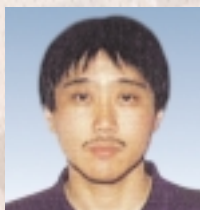


小学校へ出かけて交流する留学生たち。

現代『出島』創出プロジェクトメンバー



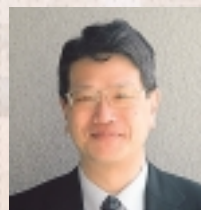
姫野 順一
(環境科学部教授)



須齋 正幸
(経済学部教授)



相川 忠臣
(医歯薬学
総合研究科教授)



小路 武彦
(留学生センター長)



橋本 健夫
(教育学部長)



福永 博俊
(教育・情報担当理事)

～ オランダ最古の国立大学 ～ ライデン大学 Universiteit Leiden



ライデン大学国際部

シーボルトも教鞭をとった、日本研究のメッカ!

ライデン大学は、1575年創設のオランダ最古の国立大学です。過去に4人のノーベル賞受賞者を輩出しています。また、日本から帰国したシーボルトが教鞭をとった大学でもあります。長崎の観光名所の一つに、シーボルト記念館がありますが、オランダにもシーボルト旧邸宅があります。現在博物館となっているその場所は、ライデン大学のすぐそばにあり、シーボルトが日本から持ち帰った植物標本・民芸品などを見ることができます。また、ライデン大学植物園には、シーボルトが日本から持ち帰ったイチヨウやカエデ、紫陽花など500種類の植物が植えら

れており、シーボルト・メモリアルガーデン内にはシーボルト像がたたずむ日本庭園もあります。このように、ライデン大学は歴史的にも長崎とゆかりの深い大学なのです。ライデン大学には、考古学部・文学部・法学部・医学部・数理学部・哲学部・社会科学部・神学部・芸術学部の計9学部・研究科があり、中でも長崎大学と特に関わりが深いのは医学部と文学部です。ライデン大学の文学部日本学科はヨーロッパ最古であり、オランダ唯一の日本学科として、これまで日本とオランダの貿易や文化交流の担い手を育てており、日本研究のメッカでもあります。



Kingdom of the Netherlands
オランダからの留学生

オランダと日本の関係が、 強くなっていくことがうれしい。

マリコ モーイマンさん Mariko Mooiman

長崎大学留学生センター所属 / ライデン大学文学部日本語・日本文化学科2年

母の影響で、 日本の風俗や風習に興味津々

「現代『出島』創出プロジェクトの一環で、昨年から長崎大学で日本語を学んでいるマリコさん。漢字を覚えるのがたいへんですね。オランダ人には「ふや」らるるる」の発音も難しい」と言いながらも、かなり流暢に日本語を話します。実はマリコさんのお母さんは日本人。オランダ人である父の母国で生まれ育ちましたが、子どもの頃から夏休みには横浜に居る祖母の家に毎年遊びに来ていました。小さい頃は、母の影響で日本語を話していたのですが、小学校に入ってからオランダの小学校は4歳から8年間、オランダ語の生活に変わりました。でも、祖母とは電話などで会話をしていたので、他の留学生よりは日本語に慣れているかもしれません。マリコさんが所属するライデン大学文学部日本語・日本文化学科は、ここ数年、入学者が急増中だといいます。今、オランダの若者の間では日本のアニメが人気で、その影響で日本語を学びたいと思っている人が増えたようです。私は、日本の祭りや季節の伝統行事、武士道などに興味があり、今回の留学に参加しました。現在は、日本語の宿題に追われ猛勉強の日々です。

長期滞在で見えてきた両国の国民性

北海沿岸の国オランダは、国土の大半が海面より低く、何世紀にもわたってユツコツと堤防を築いて海水を防ぎ、土地を造り出してきました。そんなオランダの人々は、自分の手で家の壁や床を修理したり、モノを買う時も徹底的に品物を見定めムダな買い物をしない、いわば実質的で合理的な人たちだといえます。

「伝統的な料理も、シンプルな味付けのポテトや肉などをひと皿に盛り合わせた質素なものです。



幼少時代マリコさんは、かわいいお転婆娘(?)。冬は、家の前に張った氷で「スレー」を楽しんだ。ちなみにお転婆は、オランダ語の Ontembaar (制御できない、野生の)が語源とい説も。

また、オランダ人は家族をとっても大切に、夕食はなるべく家族全員でとるようにしている人が多いですね。」

留学期間は1年間。これまで、長期間日本に滞在することがなかったマリコさんは、あらためて国民性の違いを感じています。「オランダ人はのんびりしてるけど、日本人は常に何かをしていて、食事も仕事も早い。もう少しゆっくり、味わったり、楽しんだりすればいいのになと思う。でも、実は私の母も同じ。いつも何かしていないと落ち着かない笑」。

今回のプロジェクトを通じて両国の関係が強くなるのがうれしいと話すマリコさん。「この留学で自分のもうひとつのルーツ・日本を知り、将来はオランダにある日本の企業で両国の架け橋になるような仕事ができたらいいなあと思っています」。



薬に関する歴史的な貴重資料の寄贈に、感謝状を贈呈



感謝状を持つ齋藤学長と藤井代表社員ほか関係者

11月27日、薬に関する歴史的な貴重資料を薬学教育の教材として寄贈いただいた藤井節子氏(合資会社片峰薬局代表社員)に対し、齋藤学長より感謝状が贈呈されました。

今回寄贈いただいたものは、慶応元年(1865年)に開業し、四代続く老舗の片峰薬局で実際に使用・保存されていた薬筆筒をはじめとする薬に関する貴重な歴史的資料です。

これを受けて、薬学部にお薬の歴史資料館を開設し、学生、大学院生のみならず広く薬学教育関係者に公開しています。

アカデミックハラスメントの講演会を実施



講演会の様子

長崎大学は、11月20日から12月5日にかけて計4回のアカデミックハラスメント(研究教育の場における権力を利用した嫌がらせ)の講演会を実施しました。

今回の講演会は、学生何でも相談室、メンタルヘルス懇談会及び保健管理センターの協力で実施され、大学内で発生するハラスメントの防止を啓発し、大学の構成員に理解を深めてもらい、メンタルヘルスの一助になればと計画されました。

参加者からは、ハラスメントの実例を挙げた説明に大変良く理解できたとの声が聞かれました。

「長崎大学外国人留学生

交流の集い」を開催

12月8日、今回で29回目を迎えた、長崎大学外国人留学生交流の集い」が長崎厚生年金会館で開催されました。集いには、留学生、日本人学生、教職員及び学外の支援団体の関係者など約310名が参加しました。

齋藤学長及び来賓挨拶に続いて、長崎大学留学生協会会長ニ・ライミトナさん(生産科学研究所・カンボジア)が謝辞を述べた後、恒例の留学生による各国の民族舞踏・楽器演奏・歌の紹介などのアトラクションが行われ、和やかな雰囲気の中で親睦と交流が深められました。



日本舞踊「じゃのめのかげで」を踊る留学生

平成18年度「夢募集」の表彰式



齋藤学長等と受賞した学生たち

1月24日、平成18年度「夢募集」の表彰式を実施しました。

この夢募集は、キャンパスライフを活性化あるいは充実するための学生自身の企画・提案を募集し、その実現を支援するもので、今回で8回目となります。

12件の応募があり、第1次・第2次審査を経て、夢大賞2件、準夢大賞4件、努力賞1件が選考されました。

表彰式では、管原審査委員長及び中嶋学生生活活性化専門員長から講評等があり、齋藤学長から各受賞者に賞状及び目録が手渡されました。

平成18年度「夢募集」審査結果一覧

夢大賞 わかもん! A S I A 舞踏祭/おもいやりキラキラプロジェクト

準夢大賞 長崎大学ギフトブックを作るう/長崎大学美術館/みんなで笑おう心から笑いの講演会の実施/第二の故郷長崎

努力賞 長崎大学に安全なプールを

第31回長崎大学駅伝大会を開催

2月3日、毎年恒例の駅伝大会、第31回長崎大学駅伝大会が文教キャンパス内で行われました。今年度は男子12チーム、女子5チームの合計17チームが参加し、厳しい寒さにもかかわらず、元気にコースを走りました。

ユニークなコスチュームのチームもあり、大会は大変盛り上がりました。なお、結果は次のとおりです。

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 男子の部(7区間) | 第1位 全学サッカー部 | 第2位 医学部陸上部A |
| | 第3位 全学陸上部 | |
| 女子の部(5区間) | 第1位 医学部陸上部A | 第2位 全学陸上部 |
| | 第3位 医学部陸上部B | |



男子の部 優勝 全学サッカー部

古写真データベースのアクセス件数が100万件を突破しました

附属図書館では所蔵する幕末・明治期日本古写真コレクションをデータベース化してインターネットに公開しています。

平成10年10月以来のアクセス件数が1月27日に100万件を突破しました。

日本語版の他に英語版も提供しており、国内のみならず、海外からのアクセスが非常に多いのが特徴となっています。

国内外の検索エンジンで「古写真」あるいは「old photo」を検索すると、両者とも最上位に表示されるなど、この分野で第一に参照すべきデータベースと評価されています。



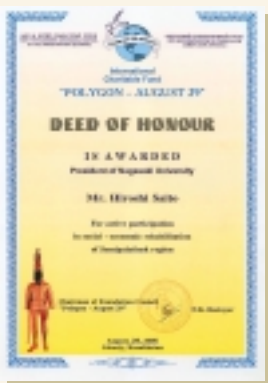
幕末・明治期日本古写真データベース
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>

NGO「Polygon-August 29」から感謝状を贈呈される

セミパラチンスク核実験場閉鎖15周年に当たり、JICA(独立行政法人国際協力機構)の技術協力プロジェクト「セミパラチンスク地域医療改善計画」に関わった方々に対し、NGO「Polygon-August 29」から感謝状が贈呈されました。

贈呈されたのは、齋藤寛学長並びに大学院医歯薬学総合研究科附属原爆後障害医療研究施設の柴田義貞教授、山下俊一教授、セリック・メイルマノフ助手、横田賢一技術職員及び同研究科の前田茂人講師の6名です。

なお、NGO「Polygon-August 29」は、旧ソ連時代の1949年から1989年までに500回近くの核実験が行われたセミパラチンスク核実験場のある地域の被害者救済のため、カザフスタン政府から承認された基金団体です。



齋藤学長に贈られた感謝状



古写真 DATA

長崎大学附属図書館蔵

目録番号：2929

撮影者：未詳

撮影地域：静岡

年代：未詳

彩色：手彩色

形態：264mm×201mm

整理番号59 - 20 - 0

コレクション検索キーワード：川 橋 旧跡 眺望

ホームページ上でもご覧いただけます。

<http://hikoma.lb.nagasaki-u.ac.jp/jp/>

【富士川の吊橋】 Rope bridge at FUJIGAWA river

【解説】

古写真に見る
橋梁の近代化の歴史

長崎大学附属図書館では、「幕末明治期日本古写真コレクション」として、幕末から明治30年代までの日本各地の都市や風景、風俗、人物など、7,500枚の古写真を所蔵しています。これらの写真は、幕末から明治中期にかけて、激動の日本の近代化の現実の姿を見ることのできる百科事典となっています。

平成19年度の本誌では、橋の古写真を通して、橋梁の近代化の歴史と地震による被害の様子を紹介します。

橋の技術は基本的に長い橋を架ける技術の歴史です。柱を倒して川に渡し、これを2本の桁として、その上に人が歩く板を敷くと「桁橋」という木橋ができます。この形式の橋は、広い川を渡すために、大きな桁となる木材が必要となります。写真の橋は、現在の名称では「吊床版橋」(板でなく版の漢字を使う)と呼ばれる橋の形式です。よく知られた橋に「吊橋」があります。麻縄や蔓のようなロープ2本で岸と岸をつなぎ、そのロープに人が渡るための通路をぶら下げると原始的な吊橋ができます。「吊橋」はロープ

にぶら下げて渡るのに対して、「吊床版橋」はロープの上を歩く形式の橋です。

吊床版橋と天秤棒の農夫

写真の「吊床版橋」は、途中に支柱を立ててバランスを取り、橋の長さを長くする工夫をしています。「吊床版橋」は戦後、東欧(当時のチェコスロバキア等)で発達し、現在では橋梁の優美さが注目され、歩道橋などに架設事例が多くあります。橋の上の人物は、おそらく演出のために雇われた近所の農夫でしょう。通行人皆がカメラ視線になっています。おもしろいのは、天秤棒を担いだ人物を配置した構図で、「吊床版橋」のバランスと、天秤棒のバランスを縮小コピーで配置して楽しんでいます。撮影者の心象風景まで見えてきます。

130年余り前の日本の田舎は、まだ江戸時代の風景が残っていたことでしょう。古写真の中に超モダンな橋の原型を見ることができるところに、無限の情報が含まれている古写真の持つおもしろさがあります。附属図書館お勧めの一枚です。

編／集／後／記

今回の特集は、「長崎大学ケニア(研究教育)プロジェクト拠点」です。長崎大学が誇れる国際貢献の一つで、他の国立大学にないユニークな取り組みです。現地に5年間常駐され、研究調査に携わっておられる長崎大学熱帯医学研究所の嶋田雅暁教授へのインタビューを中心にまとめました。

「いいか放題」は、本学工学部出身で、48歳の若さでTDK(株)の代表取締役社長に就任された上釜健宏氏にお願いいたしました。上釜氏からのメッセージは、科学技術立国日本の将来を背負って立つ若い皆様の大きな励みになるものと確信しております。

今回の「人クローズアップ」は、附属病院看護部長の赤星衣美さんです。仕事を通して培った人間的な温かみとやさしさが、ほんわかと伝わってくるのではないのでしょうか。「人クローズアップ」では、今後も教員に限らず、学内の魅力的な人物を紹介していく予定です。

【編集・発行】

長崎大学広報企画委員会

(広報誌企画・編集専門部会)

【部会長】

原田 哲夫(工学部教授)

【委員】

堀内 伊吹(教育学部教授)

高橋 和雄(工学部教授)

若木 太一(環境科学部教授)

徳永 瑞子(医歯薬学総合研究科教授)

小林 信之(医歯薬学総合研究科教授)

堀尾 政博(熱帯医学研究所教授)

佐々木 均(医学部・歯学部附属病院教授)

道脇 達樹(総務部総務課長)

TEL. 095-819-2014

FAX. 095-819-2024

[E-mail]

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

発行日◎2007年4月1日



古紙配合率70%再生紙を使用しています。

【平成19年度】長崎大学公開講座のご案内

興味のあることをより深く学べる長崎大学の公開講座。

今年度も多彩な20講座を用意いたしました。ふるってご参加ください。

※申込方法など詳細につきましては、順次、本学ホームページ(<http://www.nagasaki-u.ac.jp>)、ポスター等でお知らせいたします。

講座名	開催予定日	受講対象者/募集人員	受講料	連絡先 市外局番(095)
平和・多文化共生の構想を深める Part III	4/25~1/16 (全10回)	市民一般 30人	6,200円	教育学部総務係 TEL.819-2264
現代経営：現代経営の諸問題	5/11~6/22 (全7回)	市民一般 30人	6,200円	経済学部総務係 TEL.820-6304
英語多読指導の理論と実践(学習者の自立性を育むために)	5/19~9/22 (全5回)	市民一般 20人	6,200円	生涯学習教育研究センター TEL.819-2234
関係づくりのスキルアップ	5/23~9/26 (全6回)	市民一般 40人	6,200円	心の教育総合支援センター事務局 TEL.819-2256
地域づくり講座-地域再生人材創出拠点としての公民館の再生-	5/24~2/27 (全9回)	地域づくり関係者・行政職員・社会教育関係職員・生涯学習担当学校関係者など 15人	7,200円	生涯学習教育研究センター TEL.819-2234
生き生き健康ライフ講座Ⅶ	6/2・6/9 (全2回)	市民一般・医師・看護師・栄養士・保健師 50人	無料	医学部・歯学部附属病院生活習慣病予防診療部(担当:川崎) TEL.849-7550
小学校英語指導者養成講座(基礎編:言語習得理論、英語音声学と音声中心の英語指導法を学ぶ)	6/13~7/25 (全4回)	小学校教員 20人	7,200円	生涯学習教育研究センター TEL.819-2234
薬学講座「くすりの安全・安心」	6/23~7/21 (全5回)	市民一般 20人	6,200円	医歯薬学総合研究科 学術協力課企画調査係 TEL.849-7195
経営意思決定の新潮流	7/7・7/14 (全6回)	市民一般・学生、特にMBA, DBA(経営学博士)に興味のある方 50人	6,200円	経済学部総務係 TEL.820-6304
理科教員と市民のための現代化学-実感できる化学の進歩を教室やお茶の間に-	7/27・7/28 (全2回)	理科教員(小中高)・学習塾理系科目担当者・市民(学生含む) 20人	6,200円	工学部物質化学講座 事務局(担当:馬場) TEL.819-2683
遺伝学講座Ⅴ-遺伝について楽しく学ぼう-	8月下旬 (全1回)	小学校高学年20人・保護者10人・教師10人 計40人	無料	医歯薬学総合研究科 学術協力課企画調査係 TEL.849-7195
食卓の風景-食べる生活の落とし穴-	9/8~10/6 (全3回)	市民一般・教員・保育関係者 30人	6,200円	教育学部総務係 TEL.819-2264
大学とは何か-世界の大学・日本の大学-歴史、制度、そしてこれから	9/16 (全1回)	成人・高校生・高校生の保護者 50人	無料	アドミッションセンター TEL.819-2115
世界と日本の経済動向-2007年秋-	9/28~11/9 (全7回)	市民一般 30人	6,200円	経済学部総務係 TEL.820-6304
最適な環境で、平和に、さらに健康に暮らせるために考えよう	9/29~10/13 (全3回)	市民一般 30人	6,200円	環境科学部総務係 TEL.819-2713
水産講座「環境共生の中の水産学」	12/15 (全1回)	市民一般(中学生以上) 60人	無料	水産学部総務係 TEL.819-2793
メンタルヘルスアドバンス講座	1/26~2/9 (全3回)	メンタルヘルスに関わる専門職・学生・一般 50人	6,200円	医歯薬学総合研究科 展開医療科学講座 精神神経科学 TEL.849-7293
中国経済の躍進と世界経済	3/1・3/8 (全2回)	市民一般 30人	5,200円	経済学部総務係 TEL.820-6304
水産講座「漁民講座」	未定(全4回)	漁業者、水産業関係者 30~40人	無料	水産学部総務係 TEL.819-2793
パソコンによる画像処理入門	未定	デジタル画像処理初心者(Windowsパソコン利用経験者) 20人	6,200円	情報メディア基盤センター事務局 TEL.819-2222

表紙について

「color」

長崎大学教育学部
情報文化教育課程芸術文化コース
(美術分野)4年

児島 宏子

作品のTシャツはシンプルでカラフルなものをめざしてデザインしました。着色は洗濯しても落ちないように、不溶性のアクリルガッシュを使用。配色はPhotoshop7.0で何パターンも作成したものを参考にして、着色を行いました。

